

# 付着生物ラーバ情報

## ミネフジツボの付着はほぼ終了しました

### 1 ラーバ等の出現状況

令和5年2月18日、2月21日に陸奥湾内4地点において付着生物ラーバ等の調査を行いました。調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

#### (1) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバは2月18日に野辺地で23.4個体/m<sup>3</sup>、2月21日に奥内沖で24.2個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で58.3個体/m<sup>3</sup>、川内沖で528.1個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。

#### (2) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られませんでした(表1、図3)。

#### (3) ミネフジツボ

ラーバは2月21日に久栗坂沖で1.1個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図4)。

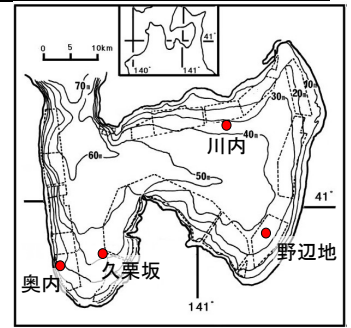


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムサキイガイ	ミネフジツボ
奥内沖	R5.2.21	0.0	0.0	24.2	20.8	0.0
久栗坂沖	R5.2.21	0.0	0.0	58.3	13.3	1.1
野辺地沖	R5.2.18	0.0	0.0	23.4	8.6	0.0
川内沖	R5.2.21	0.0	0.0	528.1	58.6	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

### 2 今後の見込み

キヌマトイガイのラーバ出現数が依然として高い値を示していることから(図2)、今後、籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加するものと思われます。

ユウレイボヤは例年10月から12月にラーバが出現し、日平均水温が8℃未満になると出現しなくなります。今季は10月から2月までほとんど出現しておらず(図3)、ラーバ累積出現数が少ないことから、現時点では今春の半成貝出荷時のネットへの付着量は少ないことが予測されますが、東湾では出現数が少なくても春の付着量が多くなる年があるので注意が必要です。

ミネフジツボの付着直前のラーバがほとんど出現していないので(図4)、付着はほぼ終了したと思われます。

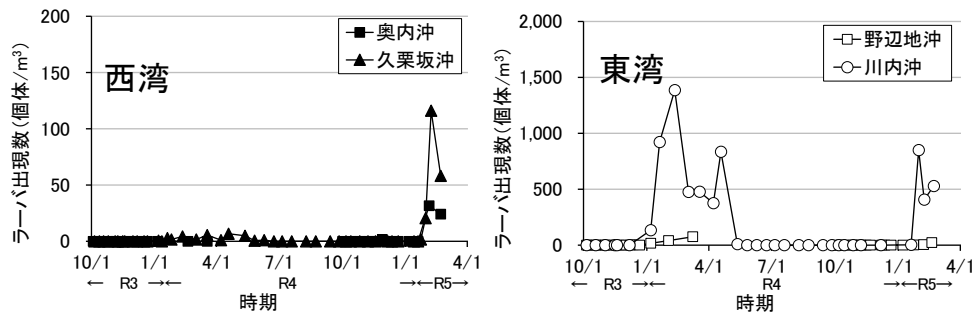


図2 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和3年10月~令和5年2月)  
・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 915個体/m<sup>3</sup>、東湾 4,483個体/m<sup>3</sup>

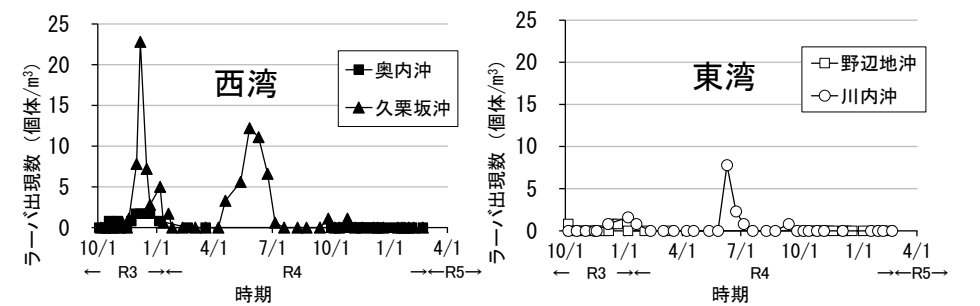


図3 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和3年10月~令和5年2月)  
・平成25年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 25個体/m<sup>3</sup>、東湾 10個体/m<sup>3</sup>

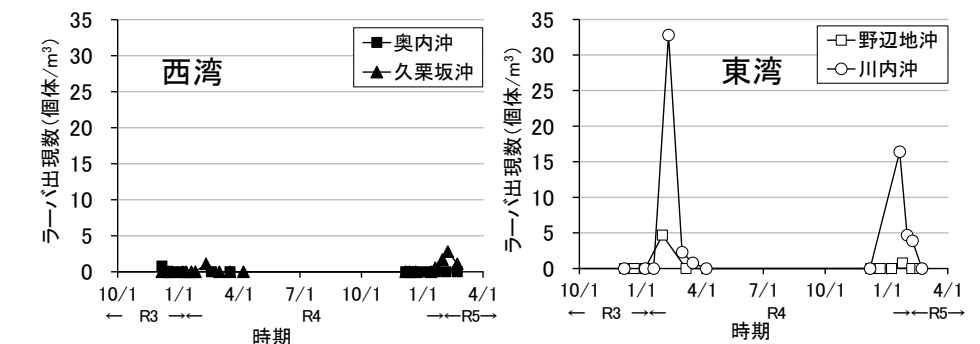


図4 ミネフジツボラーバ出現数の推移(令和3年10月~令和5年2月)  
・令和2年の観察開始から現在までの最大値: 西湾 27個体/m<sup>3</sup>、東湾 33個体/m<sup>3</sup>

